

第6回 ARG WI2 研究会 学生報告

平成 27 年 6 月 13 日, 14 日

1. はじめに

平成 27 年 6 月 13 日 (土), 14 日 (日) に, 大阪大学豊中キャンパスにて第 6 回 ARG WI2 研究会が開催された. 参加者は一般 45 名, 学生 42 名の合計 87 名であり, 両日とも活気ある発表や討論が行われた.



図 1: 熱気あふれる会場の様子

2. 一般発表

一日目は SNS 分析, 行動分析, 情報可視化・分析の 3 つのセッションが行われた. 二日目はトピック分析, 機械学習と応用に関する 2 つのセッションが開かれた. これら 5 つのセッションのなかで, 個人的に興味を持ったものについて紹介する.

初日で特に興味深かったものとして, 清田氏らによる「マイクロブログデータによる顧客理解の試み〜クラウドソーシングの適用による住まい探し行動コーパスの構築〜」を紹介する.

住まい探しは, ユーザーが決断までに長い時間をかけ情報収集や比較検討など多くのプロセスを経ることや, 多種多様なニーズが存在することから, ユーザーの行動を既存のアンケート調査などでは十分に理解することが困難という問題が存在する.

そこで, 清田氏の研究では, Twitter 上で住まい探しについて呟いているユーザーに着目し, タグ付きの「住まい探し行動コーパス」を構築し, 住まい探しの行動プロセスの可視化を試みていた. その結果, 数十人の Twitter ユーザーが住まいを探しているプロセスが可視化されていた. また, ユーザーの住まい探しの一番多い目的として, 転職や大学卒業よりも, 同棲が多いという結果が得られていた. この結果は Twitter のデータならではのもので, 大変興味深かった.

次に, 二日目の特に興味深かった発表として, 福井氏らによる「数学式曖昧表記変換型数式入力のための機械学習による数式予測と精度」を紹介する.

従来, 数式入力には GUI を使い, 分数や指数など, 数式構造を表すアイコンテンプレートから選択し, 要素を入力し数式を構築する構造ベース入力方式が代表的である. 他にも LaTeX などのデジタル入力の方法があるが, これらの従来方法では, 依然入力がわずらわしいという問題点がある.

そこで, 福井氏は, テキストベースの入りに近い, 数式曖昧表記変換型数式入力の候補算出アルゴリズムに, 機械学習を応用し, インテリジェントな数式予測が行うことを提案していた. 結果, 変換候補の精度は実用レベルの高い精度を得ていた. イメージとしては仮名漢字変換の数式版のようなもので, ある数値を入れた時にいくつかの数式候補が表示されるものである. 現在の LaTeX などでは数式を書くには完全なスクリプトが必要だが, もし, これが実用化されれば, もっと簡単に

数式を入力ができるようになるのではないかと感じた。

4. 招待講演

初日の招待講演では「情報検索におけるユーザモデル」という題目で京都大学の加藤誠氏による情報検索に関する講演が行われた。

まず、講演のはじめで、情報検索の定義について話されていた。「情報検索とは、情報を獲得しようとするユーザーの行動・思考を理解、推定、活用し、ユーザーの情報獲得を効果効率の面で向上させること」という定義をされて、この定義の中のユーザーの行動・思考の理解・推定・活用が重要だと説明されていた。

また、クエリ推薦の話では、どうすれば最適なクエリ推薦を行えるのかという非常に分かりやすいスライドで話されていた。少し難しい内容だったが、スライドによって簡単に理解ができたので、発表の仕方やスライド作りは非常に参考になった。個人的にクエリ推薦を提示すると、ページに辿り着く時間が遅くなることや、デスクトップとモバイルの環境下でクエリ推薦の有無によって時間的損失の傾向が違うという結果は、非常に興味深かった。

二日目の招待講演では、「Discovering the GitHub collaboration platform」という題目で GitHub Inc の John Britton 氏による Git に関する講演が行われた。

Git とはプログラムのソースコードなどの変更履歴を記録・追跡するためのバージョン管理システムである。講演では、まず Git のコマンドについて詳しく説明されていた。保存や差分参照、ログの見方などひとつずつ丁寧にデモを行って頂いた。

また、ブラウザ上での Git プログラムの利

用方法もデモして頂いた。ブラウザ上でのメンバーに意見を伝えることができる issue の機能は初めて聞いたものだったので、興味深かった。自分の Git を自分のパソコンに入れているが、放置している状態だったので、この講演で聞いた話を参考に勉強しなおしたいと思う。

5. 懇親会

一日目の終わりに蛍池駅の近くのネパール料理店「Kathmandu」にて懇親会が行われた。店内はこじんまりしており、懇談会参加者の 32 名で満員だった。今回はコースで、初めはサラダやお肉などが出てきて、後半にカレーと非常に大きなナンが出てきた。前半のサラダやお肉で大分お腹が満杯になっていたの、後半のカレーとナンが非常に苦しかった。ナンは苦しかったが、他大学の先生や学生の方とのお酒を交えながらの懇談は非常に楽しく有意義なものであった。



図 2：ネパールキッチン Kathmandu

6. おわりに

2 日間にわたる研究会では様々な分野の発表を聴くことができ、自分自身の研究の参考となる話も聞け大変勉強になった。また、萌芽賞も頂いたの、今後さらに自分の研究を発展させていき、また Wi2 研究会で報告ができたと思う。

遠山由自(静岡大学)